

寺
ごみ
七月
一日
お講 音沢

永代祠堂会

七月十四日から、恒例の永代祠堂会がつとまりますが、今年から合わせて、次のような法要もつとめますので、ご縁のある方は是非お参り下さいますように。

一四日昼一時 総代会物故者法要
一五日昼一時 白鶴会物故者法要
一六日朝十一時お講 中陣
一七日日一時 お速夜
一八日日七時 戦没者追弔法要
一九日日七時 お経会お初夜
二〇日日一時 寺族物故者法要
二〇日日一時 内陣法名法要
☆一六日お講以外の日はお寺でおそめんの用意をしております。

二八日 日校サマースクール

寺報

善 巧

発行

938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
宇奈月 0765(65)0055

永代祠堂会

七月十四日～二十日

説教 里村了学師



私事(わたくしごと)から書き初めて恐縮ですが、私の父(前住職)は、昭和二十一年十一月八日に亡くなりました。又、私の母(前坊主)は、昭和十七年八月六日に急逝致しました。昭和六十六年は母の五十回忌に当ります。その時、私は八十才になって居ります。父母の三十三回忌を勤めた時は、五十回忌が勤められるとは夢にも考えませんでした。その後、馬齢を重ねて、兎に角あと四年となった今日、ひょっとしたらと思うようになりました。頑張つて今度こそ盛大に父母の五十回忌法要を是非勤めさせてもらおうと、自らにはげましの言葉を送っている最近であります。

祠堂会へのお誘い

「そのゆへは、一切の有情はみなもて世々生々の父母兄弟なり。いづれもいづれも、この順次生に仏になりてたすけさふらふべきなり」

皆様の中にも、法要の私物化が蔓延してはいませんか。

祠堂会とは、何時も申し来たように、門徒全体の法要です。その御門徒は、いづれも世々生々の兄弟姉妹です。自分の家の父母の法事は、此度自分の家で勤めて了った。門徒全体の祠堂会など、わざわざ行くには及ばないと、祠堂会におまいりするのをサボっている方は無いでしょうか。

内陣法名のお軸にも「何々家代々」と書いて、個人の名を取って記してない方もいらっしゃる。

一切の有情というのは、印度の言葉を翻訳したもので、動物も植物も含まれて居ります。

して見ると、皆様の家で可愛がっていた死んだ猫の法要も或いは又、大切にしていた盆栽の五葉松の枯死したの法要も、善巧寺の祠堂会には、勤修されるのです。誘い合せて法悦にひたろうではありませんか。

住職 雪山俊之



空華忌記念講演

③

行信教教授

利井明弘師

僧鎔和上のお書きになった「正信偈評註」と「正信偈聞書」とを対照しながら、お話をさせていただいておりますが、前席で申し上げた通り、宗祖親鸞聖人がお正信偈をあらわされたのは、多くの学匠はその理由をいくつも挙げておられるが、僧鎔師は「評註」の中で「ただ一つ」とおっしゃっています。つまり「知恩報徳」ご恩報謝のため以外にはないんだというわけです。これは、理屈ではないんです。これのため、あれのためというのではなく、宗祖は、ただただ、お念仏のおいわれをよろこばれ、そのよろこびのまを、偈一つまり、うたにあらわされたのがお正信偈なのだということであります。

そして一方「聞書」の中で僧鎔師は、このお正信偈をあらわされた宗祖の起発因縁を、八つにひらいてうかがってられます。まず一つには「二尊の大悲を伝

いうことになれば、家が近づくにつれて、心は高まり、リズムがついて、それこそランラン、ランランで帰ってきますね。それと同じでね、宗祖は「教行信証」というご書物の中でね、弥陀の本願のおいわれを説いてくださっているわけですが、その行の巻と、信の巻の間にあってね、たまたらずにいいますか、よろこびのたかまりが、うたになったということだと思えます。うたというのは、そういうものでしょう。この僧鎔和上のお徳をたたえるのにも、ただ言葉だけでというのではなく「ああ明教院僧鎔さま」ってうたっているじゃないですか。

ねえみなさん、覚えようと思わ

お念仏の里に住んでいて

あたりまえ…は、

もつたいない

んでもいいんです。忘れんこうと思わなくてもいいんです。朝晩毎日「帰命無量寿如来」と口にしていれば自然と身につけてしま

うんです。一番食べやすい形、一番聞きやすい形にして与えて下さったのが、このお正信偈なんです。うちの方では、宗派も知らん方が、お葬式してくれといつてこられることがある。あなたの宗派はと聞いてもわからない。そこで、「キミヨームリョージュニヨライですか?」と聞くと「ああ、それそれ!」ということになる。

鼻うたまじりでも、寝言まじりでも朝晩となえやすいようにして、知らない間に味わるるんです。そう、ごはんみたいなものです。毎日たべてる。あれ味はついてない。おいしさからいうとおかずの方がうまいはず。しかし、ふと食べられなくなつたら、やっぱり、一番最初に、たべたくなるのは、白いご飯ですよ。

お念仏だつてそうですよ。いつも身近にあるから、聞かえてくるから、となえられるから、なれつこになつてしまつてね。ありがたさもほどほどか、それ以下という感じですが、これが、まったく、お念仏の音が聞こえないところへいつたらどうでしょう。やっぱり

ああ、如来さま、となつかしく思いい、お正信偈を口にするんじゃないですか。

ありがたさ、なつかしさ…でいつも思うんですがね。うちの弟が大阪の実家へ帰ってくる。もう十日前から、親がそわそわしています。わたしらちよつとお菓子に手を出そうものなら「隆弘が帰ってくるから」。十日たつたらくさるのに…と思つてもだめですね。いや、ほんとにいいもんなんでしょう。あ、里帰りつて。わたしもこの玲子さんも里帰りというのがない

んです。つまらんなあと思います。しかしね、みなさん、お念仏の里に住んでいたら、ヘタすると親のご恩を忘れがち。僧鎔和上のこの善巧寺の本堂で、お念仏のおいわれ聞かせていたでいて、まるで、里に住んでいるようなものじゃないですか。そうですよ、そうだから逆に、なかなか、ご恩よろこべないんですよ。ありがたいはずなのに、ちやうど長男の私と一緒に親のふところにいるたら、ありがたみがわからぬでしょう。弟の帰ってくるのを見ながら、ええもんだなあ、里帰りか…なんていいながらね、よく考えたら、私には里帰りはないが、里はあるつまり、そこにどつぷりつかつていたら、なにもかも、あたりまえになつてしまふんですよ。

ねえみなさん、わたしたちみんな、お念仏の里に住まわせたいただき、大きな大きなお育てをうけているんです。そして毎日毎日、親の声を聞いているということをやろこばせていただきます。それは、それに気付かずあたりまえ…ではなくて、ああ、この私は、いつもいつも、親の里に住まわせたいたでいてたんだということを、よろこばせていただきます。私たちが日暮しの中でもすれは忘れがちな親の声を、知らん間に聞いているような形にして下さっているのが、このお正信偈でもあるのです。

末法にはびこるたり 占い 超能力のまやかしに親近することなかれ

「大法輪」より転載

仏説末法オカルト経

佐伯真光

(相模工業大学教授)

是の如く我聞けり。一時、仏、王舎城耆闍崛山の中に住して、大比丘衆万二千人と俱なりき。爾時、仏、未曾有の教法、末法オカルト経と名付くるを説き給う。大比丘衆よ。諦かに聴け。我が滅度の後、五五百歳、東方日本国に邪法興起せん。末法オカルト教と言う。是の邪法に数多の分派あり。競うて大衆を誑惑し、善男善女を悩乱せしめん。

祟り派と称する一派あり。神仏霊、祖先霊、低級霊、人に憑依して祟りを為すと説き、大衆を威嚇し、言葉巧みに金銭財宝を奪掠す。所謂憑依霊、多数あり。曰く。因縁霊、背後霊、浮遊霊、地縛霊、不成仏霊、水子霊、動物霊、竜神霊、白蛇霊、おさき霊、狸霊、大神霊、パンダ霊、コアラ霊、エリマキトカゲ霊等あり。是の如く等の不浄霊、人にとりつけて種々の障礙を為すと説き、霊障を除かざれば、ガン、エイズ、または交通事故により不慮の死を遂げんこと必定なりと、怯弱の大衆を脅迫す。その手口を、靈感商法、催眠商法、開運商法、祟り商法と言う。斯く大衆を

畏怖せしめ、価値数百万、数千万の印鑑、念珠、高麗壺、多宝塔、朝鮮人参を売りつけ、億万の暴利を貪る。大比丘衆よ。神仏の一切衆生を慈悲哀愍すること、実の父母の如し。如何ぞ愛子に祟りを為すことあらん。家門隆盛、児孫繁栄を願わざる祖先あることなし。如何ぞ己が子孫に祟ることあらん。況んや、万物の霊長に、動物の怨霊乗り移る理あるべからず。

復た、占い派と称する一派あり。人生万事、運命の支配下にありと説き、大衆を邪信に引誘す。是れ決定論、宿命論にして、因果の理に違背し、縁起の法に悖戾するの説なり。その説くところ、異説数多あり。曰く。陰陽、五行、干支、八卦、九星、六曜、金神、土公神、十二直、八将神、淘宮術、四柱推命、鬼谷算命、六星占術、六三除け、天中殺、天命殺、大殺界、三隣亡、人相、手相、観相、家相、地相、印相、墓相、マンション相、自動車相、気学、姓名判断、夢占い、西洋星占い、ホロスコープ、タロット占い、水晶球占い、競馬占い、コンピュータ占い、血液型、ウイジャ、コックリさん、ヨハネ黙示録、聖マラキ、ノストラダムス等なり。古今東西、異論奇説多きこと、是の如し。矛盾撞着して帰一するところを知らず。互いに門戸を張るこ

と、商賈の大道にてバナナを叩き売るが如し。故に知るべし。すべて是れ無稽虚誕の妄説、大衆を欺罔せんための巧詐に外ならず。復た、超能力派と称する一派あり。魔訶不思議の幻術を大衆の面前に於て現出し、輕慮妄信の人を錯謬の執見に陥らしむ。所謂超能力を演出するに数多の法あり。曰く。スプーン曲げ、スプーン切断術、美女切断術、水上歩行術、空中飛行術、宇宙遊泳術、物体浮揚術、物品取寄せ術、心靈手術、幽体離脱術、透視術、交霊術、降神術、念力護摩術、靈狐術、読心術、靈聴術、怪力術、心靈写真術、物理霊媒術、ボルターガイスト、サイコキネシス、エクトプラズム、テレパシー、テレポーション、レヴィテーション、ESP等なり。すべて是れ詐術奇計にして、巷の奇術師の初等手品と異なることなし。手裏を弄んで超能力に擬す。誑詐これより甚だしきは無し。大比丘衆よ。諦かに聴け。是の如く等の邪法に親近すること勿れ。善く之を思念せよ。邪法の徒は、仏説に非ざるに仏説と説き、阿含に非ざるに阿含と称し、科学に非ざるに科学を装う。般若の智慧、理性の眼を以て、如実に知見し、正観に住し、邪法に惑わさる勿れ。此の時、会座の大衆、仏の所説を聞き、皆大いに歡喜し、信受奉行せり。

MAN is 慢

カゼは万病のもと
慢病はなんのもと？

慢とは自ら高ぶり、他を軽視する
自分本位の心です。

お釈迦さまは、私たちの慢心・邪見
が差別する心を生むと、きびしく
いましていらつしやいます。

私たちは、自分の慢性の慢病に気
がついているでしょうか？

①
いちばん
よい子は
この私



邪見・橋慢・悪衆生
私たちが生きている間に正
義の神様が天に召されてい

橋

家柄・財産・地位・健康・博識・
美貌・能力などに対するおごり

②
に
笑って
人を刺す



慢
他人と比べておもしろがること

③
ろくでも
ないのは
みな他人



過慢

わが身を過剰に愛する
同僚や友人や知人



④
ほんとは
あいつも
俺ぐらい

増上慢
中身がないのに
おごりやうをふる



⑤
はずかし
ながら
テレもせず

赤光白光

基幹運動計画
の普及版小冊子
が面白い。表紙
をめくると「M
AN IS 慢」と
あって「カゼは

万病のもと 慢病はなんの
もと？」少々シャレがきつ
いか、オヤ？と読ませる。
そして「慢とは自ら高ぶ
り、他を軽視する自分本
位の心です。お釈迦さまは
私たちの慢心・邪見が差別
する心を生むと、きびしく
いましていらつしやいま
す。私たちは、自分の慢性
の慢病に気がついているで
しょうか？」と問いかける
▼そこで五ページにわたっ
てイラスト入りの「慢心カ
ルタ」が登場するのだが――
まず「い」は、いちばん
よい子はこの私（邪見・
橋慢・悪衆生）「ろ」は
「ろくでもないのはみな他
人」（他と比べて思ひ上が
る慢）「は」は「はずかし
ながらテレもせず」（中身
がないのにある顔をする増
上慢）「に」は「にっこり
笑って人を刺す」（家柄・
財産・地位・健康・博識・
美貌・能力などに対するお
ごりの橋）「ほ」は「ほん

付 煩惱カルタ

(心に当たればハイと答えて慚愧の心を)

- ① 盗んだ知恵で我物顔 (倫盗)
- ② 流転輪廻の身程知らず (無慚)
- ③ 女は色力 男は名利 (欲)
- ④ われ面白の他人困らせ (害)
- ⑤ 勝手気ままに仕放題 (放逸)
- ⑥ よその花は 赤い (嫉)
- ⑦ 他人の飯は 白い (妬)
- ⑧ 礼で始まり乱に終る (諍)
- ⑨ そっと耳打ち他人の噂 (悪口)
- ⑩ 強い者が勝ち (闘)
- ⑪ 眠気は 無智から (睡眠)
- ⑫ ならぬ勘忍しない勘忍 (怒)
- ⑬ 楽して得をとれ (懈怠)
- ⑭ 無明の酒に酔う (無明)
- ⑮ 馬の耳に念仏 (不正知)
- ⑯ いざ 方ネ倉 (食)
- ⑰ のぼせて語る我自慢 (掉挙)
- ⑱ おかげさまよりお金様 (無愧)
- ⑲ 口に密 ハラに剣 (両舌)
- ⑳ 安物買いの銭失ない (悪見)
- ㉑ 負けた恨みは末代 (恨)
- ㉒ けんかならこい (不和合)
- ㉓ 不腹の明け暮れ (恨沈)
- ㉔ こころこころ (散乱)
- ㉕ えらい人におべっか (綺語)
- ㉖ 手でする事を足でする (悪作)
- ㉗ 朝に乱心夕べに癪癪 (忿)
- ㉘ 去った後で戻って来い (愛着)
- ㉙ 聞くはしから忘れる (失念)
- ㉚ 雪と欲、積って道なし (欲)
- ㉛ 目で目は見え (無智)
- ㉜ みかけに倒される (惑)
- ㉝ 四をヨンとかつぐ (邪見)
- ㉞ 遠慮しいの人さわがせ (卑慢)
- ㉟ 一つ叶えば又一つ (貪)
- ㊱ もうちょっともうちょっと (欲)
- ㊲ セミは春秋を知らず (愚)
- ㊳ すんだ後でしまった (痴)

卑下慢
謙遜するふりをしながら
自慢する

へりくだって
ほくそえむ



邪慢
他人を罵るなどして
自分を偉いと思ふ



と 徳も
ないのに
したり顔

我慢
自分に不利な
おもいあがる心

ち ちつとも
私は
かわらない



慢過慢
進んで良くなる
進んで良くなる



り 知人より
俺が上

念仏の声を世界に子や孫に

申込はお寺へ

年三、六〇〇円

大 乗

読者の輪
広ろげよう

年二、二〇〇円

本願寺新報

であるとする過慢)「へ」は「へりくだってほくそえむ」(卑下慢)「と」は「徳もないのにしたり顔」(他人を見下してまで自分をつくろろ邪慢)「ち」は「ちつとも私はかわらない」(自分に不利な我慢)「り」は「知人より俺が上」(すぐれた者より上とする慢過慢)▼「思い当たったらハイといいましよう」と読んでゆくうち、はじめは笑いながら手をあげていたが、いろはを過ぎたところからみんな黙り込んだ。どうやら当たり過ぎていてなさけなくなってしまうらしい。

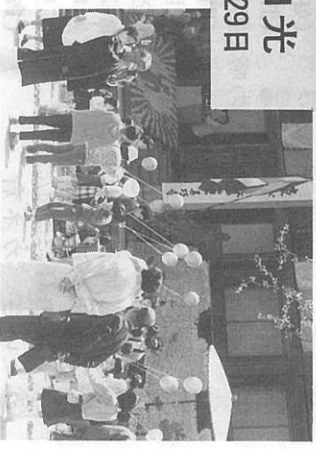


当日は日曜学校のこどもたちが「仏の子」をうたいながら仏さまに花をささげ、初参りの、中完ちゃん（中伸之さんの長男）が住職からおじゆすを贈られ「ちいさないのちすこやかに」との門主の「消息が披ろうされま

チェリーツプの花いっぱい！恒例のお寺の「花の誕生会」は、今年も四月二十九日に行なわれまし。うらやま日曜学校の子供たちとお経会のおばさんたちが二日かりで数万個のチューリップの花かざり。ことしの花絵は、極楽浄土のハスの花。黄色黄光、赤色赤光、白色白光そのままだ、御堂はすがすがしい花の香りでいっぱい。

花の誕生会

赤色赤光 白色白光
4月29日



緑日は、夢を語る会が「ようこそようこそ」のフーゼンと、わた菓子。花の会がこんにやくおでん。甘茶のサービス。おたのしみ券をもらった子供たちやお年寄り、お母さんが春の日のひとときを、寺の境内で花にかこまれながら、心ゆくまで楽しんでくださいました。また、舟見の音楽園からは今年もバスでお参りに来て下さり、中には、なじみの顔もあつたりして話かはすんでおりました。心のふるさと善巧寺へ、ほんとにようこそお参りでした。



新学期を迎えて、ことばの教室わつて、只今五十五人。これはもう大劇団なみでありまして、お寺の境内や本堂からは、毎週月曜日の午後四時から六時まで、子供たちののはつらとした声がこぼれています。テレビや個室でだんだん生きたことは失ないつつある子供達！「雪ん子劇団」はいよいよますます、本領発揮といったところです。



10月25日 県教育文化センターで
9月6日 砺波・鷹巣小、庄南小
8月23日 夏の定期公演 中央公民館
7月12日 宇奈月公民館 青年祭
雪ん子劇団公演予定

予定を聞きました。子供代さんを選び、この一年の活動月二十一日に総会を開き、会長に新保幸夫さんを再選 会計に田中新保さんを選び、この一年の活動

雪ん子劇団 只今55人！ 身心健康潤演技

今年度の初公演は、六月十四日、黒部青年会議所十周年の記念式典、黒部市民会館に県内各地から集まったJIC会員と来賓の方々に前にして、式典の冒頭、手話ミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」を上演。十周年のJICに、十歳前後の子供たちが、手話と踊りをまじえながら「みんなのとうちゃんえらいんだ」と訴え、かつさいを浴びました。

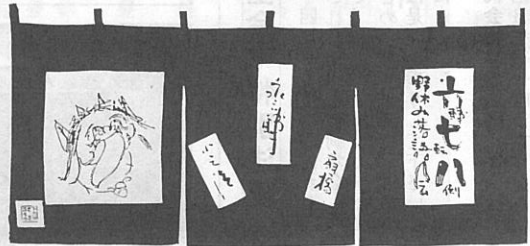


雪ん子劇団の公演ビデオを発売しています。◆第一巻は「劇団紹介」「ことばあそびうた」「うちのとうちゃんえらいんだ」この三本が入ったもので五千元。◆第二巻は、民話劇「ちづる」夕鶴の子供版で、人と人、人と自然との関わりを子供たちが詩情豊かに訴えます。三十分五千元。共に「V」か「B」かサイズを明記してお申し込み下さい。



野休み落語10周年

6月7日



「六輔七転八倒浦山野休み落語会（主催・宇奈月夢を語る会）」も迎えて今年は十回目！

六月七日の午後六時。会場の善巧寺本堂に一番乗りは、名古屋の熱烈な落語ファン、つづいて富山大学の落語研究会の学生さん。遠く大阪の岸和田からという夫婦連れ。福井からはお寺の奥さんのお姉さん。さらには井波から上平村から、氷見から、そして新湊の団体さんなど。もちろん滑川、魚津、黒部、入善、そして地元宇奈月、浦山からのお客さま合わせてざっと三百人。

午後七時。例によって開演三十分前に永六輔さんが高座へ。「エー、十年になります。落語をお寺でというのは、本家帰りのようなものでありまして。こな

いだアメリカの方と、ぼくの家族が会う機会がありまして、相手がいっぱ言葉が、オー、エイズ・フアミリー！（爆笑）

七時半。若院が万感こめて十年年のごあいさつ。そこでチョーインと木が入って出ばやしが鳴り...

お客様にサイン手拭い、出演者には米一年分

入船亭扇遊さんの「血屋敷」。おなじみの「一枚：二枚：三枚：八枚：九枚：うらめしや」も落語になると大笑い。つづく師匠の入船亭扇橋さんはユーモラスなお色気で「尻もち」幕れにもちもつけない貧乏夫婦が

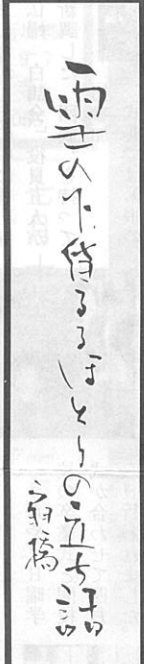
そしてトリは柳家小三治師匠の「できごろ」。関西では「花色もめん」という題で、長屋でドロボウに入れた男が、盗まれもしないものをならべたて「フトンの裏は花色もめん。羽織も袴も刀もタンスもみんな、裏は花色もめん」

六月七日 日曜日 快晴 暑い日が続く。本堂から鐘楼堂まで提灯の列。今晩は恒例の落語の日である。八時半、地元浦山から上げ法事、七名。六月七日は、仏の忌日に当り、一周忌法要である。仏は、永年郵便配達の仕事に精励して黄綬褒賞を受けた人。今日は娘達が市川、狭山、日光から歩を運び、未亡人と共に法要に参加している。私の娘と同級生のも居り、三十数年前、毎日、寺に遊びに来ていた頃のことをなつかしく話している。本堂にて、観經一巻上げる。引き続き、栗虫の上げ法事。同じく観無量寿経。仏前の山百合が匂っている。集う者二十三名。仏は、永年寺総代をつとめた方で、今日

はその三回忌である。八十三才で亡くなっている。二十三名のうち、明治生れは二名だけ。孫たちも、夫々に立派に成人している。昼食には、ままかり、広島菜、門司のうにと若院の最近の広島県

庭を一巡りする。蛇が庭石を横切る。燕が巣を作っている。額あじさいが、ポツポツ花を持ちはじめている。夕食前の僅かの空き時間に、やなぎ句会宗匠の扇橋師と庭に上げりにしげつっている雪の下を見乍ら

名近くが入っている。腹をかかえて笑っているうちに、終ったのが十時。満堂のお客が満足して帰って行くのを見て、こちらも大満足。寄席といえば、私の学生時代は、京都、新築極の花月劇場に通ったものだ。万才や手品が主で、落語は上方落語だった。昔



日記 住職の寄席の雰囲気よかったの覚えていて、靴を脱いで畳の上に座ると、女中さんが、座ぶとんと煙草盆を持って来ててくれ、お茶を運んでくれた。落語は、何といっても畳の上で聞くのが本当だ。十時半、浴室で汗を流す。十一時就床。

行きの土産である。日曜で、孫達も一緒である。一時、落語の面々の早々のお着きである。今年は、十周年。永さん、扇橋さんは皆勤である。とにかく暑い。書斎の寒暖計が、二十九度をさしている。

の俳句談。師匠の句を記して置く。「雪の下、昏るほとりの立ち話」七時に、座ぶとんを手にして本堂に入る。此処十年、何時も、中央あたりに陣取って、聞くことにしている。定刻前三十分。もう百

万縁や草引くわれの小天地 熊ん蜂 住きては還る 羽音かな

寺 八月

- 一日 日校サマースクール
- 二日 日校サマースクール
- 三日 日校サマースクール
- 四日 日校サマースクール
- 五日 日校サマースクール
- 六日 日校サマースクール
- 七日 日校サマースクール
- 八日 日校サマースクール
- 九日 日校サマースクール
- 十日 日校サマースクール
- 十一日 日校サマースクール
- 十二日 日校サマースクール
- 十三日 日校サマースクール
- 十四日 日校サマースクール
- 十五日 日校サマースクール
- 十六日 日校サマースクール
- 十七日 日校サマースクール
- 十八日 日校サマースクール
- 十九日 日校サマースクール
- 二十日 日校サマースクール
- 二十一日 日校サマースクール
- 二十二日 日校サマースクール
- 二十三日 日校サマースクール
- 二十四日 日校サマースクール
- 二十五日 日校サマースクール
- 二十六日 日校サマースクール
- 二十七日 日校サマースクール
- 二十八日 日校サマースクール
- 二十九日 日校サマースクール
- 三十日 日校サマースクール

北陸ブロック仏婦大会 5月31日

白鵠会初参加

「伝えよう 真実のいのちを、受け継ごうこのみひかりを」——第十八回北陸ブロック仏教婦人大会は五月三十一日、富山県民会館で大谷嬉子名誉総裁を迎えて開かれました。

会場には富山、高岡、石川、福井の各教区から千人を超える仏婦会員が参集しましたが、その中に善巧寺仏婦「白鵠会」役員五人が新調した「団旗」を持って初参加。



式典では緊張の団旗入場のあと音楽礼拝があり、名誉総裁からの「祖父母、両親を含めた先輩の方々から伝えられたおみのりのよろこびを、次の世代に伝えて下さいますように」とのお言葉。このあと午後からはパネルディスカッションと記念講演。講師の藤沢景正先生は「人生の明暗」と題して、逆境に生きる道を親鸞聖人の教えに学び



うと、切々とお説きになりました。とにかく、こうした仏婦大会の参加は初め

日曜学校卒業、開校式

うらやま日曜学校の卒業式と開校式が合わせて四月八日行われました。



卒業したのは大田昌和、雪山教隆、中千鶴、森内麻喜子、福島由紀子、炭田恵、宮丸和子、中村香織さんの八人。この日の新入生は中山まい、川上あかね

さんら五人。おつとめとお話のあとみんなでカレーをつくって食べました。この学校はいつでもだれでも参加できます。夏はサマースクールと盆踊り。秋冬はまたお楽しみいっぱい。寺の境内で思い切り遊んで、よい子に育って下さい。

祠堂会で特別法要

七月十四日から一週間にわたって勤修されます「永代祠堂会」に合わせて、今年から次のような法要もつとめられますので、ご縁のある方は是非お参りして下さいように。

総代会物故者法要
七月十四日午後一時。亡くなられた総代さんの家族の方と、現総代さんは必ずお参り下さい。

白鵠会物故者法要

十五日一時。善巧寺仏婦「白鵠会」の物故者の家族と、白鵠会の会員の方は是非お参り下さい。

戦没者追用法要

十七日一時。門徒の戦没者遺族の方はおさそい合わせお参り下さい。

寺族物故者法要

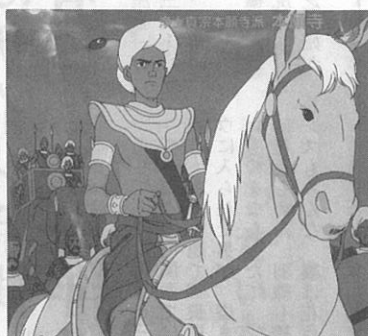
十九日一時。善巧寺、法輪寺、照行寺の寺族物故者の法要です。

内陣法名法要

二十日一時。例年通り特別懇志志納者の内陣での焼香があります。

おもしろくてためになる “見るお経” 発売中

第四巻
『ルリ王子の怒り』



定価9,300円、申込はお寺へー

善巧寺の 常例行事

お花の会	夢の会	雪の会	日曜学校	お講
毎月第一・第三土曜日	毎月第一・第二土曜日	毎月第二・第三土曜日	毎月第一・第二土曜日	毎月第一・第二土曜日

合 掌

青葉のきれいな五月の末に、旅の人が五人、お寺へやって来られました。「浦山・善巧寺、たしかこのへんに違いない。ホラ、あそこに愛本の橋が見える。」そういうて浦山の梨畑のあたりで温泉に向かう団体バスを降りて、まったく初めてののお寺に立ち寄られたのです。

大きな善巧寺の石柱を見て「おお、ここだ。」ふと見るとそこで法輪寺の高島さんが庭いじり。「やあ、高島さんでしょ。こんにちわ。」

あいさつされた高島さんは見ず知らずの人なのでキョトン。本堂に上がった五人は、じつは若院のいとこで広島の大江さんというお寺の副住職と門徒の方々。どうして高島さんや、愛本の橋やとくわしかったかという、この人この寺報を第一号からすべて、すみからすみまで読んで覚えていらつしやるほどだったんです。「善巧寺のことは、ひよっとしたら門徒さんよりくわしいかも……」とも。

いやようこそようこそ……。

